

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 9 日現在

機関番号：24403
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2009～2011
 課題番号：21520446

研究課題名（和文） テキスト構成に関する日仏対照研究の基礎：遂行性と語法を中心に
 研究課題名（英文） A French-Japanese contrastive study of text organizations:
 performativity and narration

研究代表者
 高垣 由美 (TAKAGAKI YUMI)
 大阪府立大学・人間社会学部・准教授
 研究者番号：60253126

研究成果の概要（和文）：

テキストの構成の違いに関する日仏対照研究で、3つの仮説を立てた。

仮説1) 日本語は、フランス語に比べて、結束性と指示の明確性において低い。

仮説2) 日本語は、フランス語に比べて、視点の明確性と遂行性に関して高い。

仮説3) 以上の特徴が2言語間のテキスト構成の違いの言語的基盤となっている。

本研究でこれらの仮説が、呼びかけ詞を初めとする多くの言語事象によって、再検証された。

研究成果の概要（英文）：

In the aim of explaining the differences of text organizational patterns between French and Japanese, we have formulated the following three hypotheses:

Hypothesis 1. In Japanese, cohesion is weaker and reference is less explicit than in French.

Hypothesis 2. In Japanese, point of view is expressed more explicitly and illocutionary force is stronger than in French.

Hypothesis 3. These characteristics are linguistic basis of differences of text organizational patterns between French and Japanese.

We have examined divers phenomena like terms of address and verified these hypotheses.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	150,000	650,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：(1) フランス語 (2) テキスト (3) 対照修辞 (4) 遂行性 (5) 人称

1. 研究開始当初の背景

テキストとは、文の上の言語単位のこと

ある。テキストはその構成要素である各文が

互いに関連を持ちあって構造をなしており、単なる文の羅列ではない。このテキスト構成の言語による特徴は、外国語学習の場で端的に表れる。日本人は一般に、フランス語や英語といった（特に西洋語系の）外国語で、まとまった内容を筋道立てて述べるのが苦手である。文法的に正しい単文は発信できるが、それぞれの文を関係づけて全体として1つの話を構成することが不得手なので、結局何が言いたいのかが、ネイティブ・スピーカーによく伝わらないことが多い。

このようなテキスト構成の違いに関する対照研究は、英語教育の分野で行われた R. Kaplan (1966) が端緒となっている。Kaplan はテキスト構成の仕方には、言語によって好まれる型が違うことを指摘し、対照修辞学という分野を予言した。しかしこのテキスト構成の比較の問題は、以上のように教育の分野で取り上げられることはあっても、それはあくまで教育上の効果という枠内にとどまり、実践上の有用性が問題になることはあっても、言語学的にみて根拠のある検証はほとんどなされてこなかった。また研究対象とされている言語も、日本語に関しては英語との比較で上記のような幾つかの研究が存在するのみで、他の言語との対照研究は余りなされていない。

2. 研究の目的

テキスト構成からみた、日本語とフランス語の特徴を、対照言語学的観点から明らかにする。Jean-Michel Adam の最新のテキスト理論を応用し、文化的視点での研究と融合させ、総合的なテキスト理論の構築の基礎を築く。

特に話法に注目し、それを遂行性との関連で論じる。この理論的成果の応用研究として、特定目的のためのフランス語学習の教育法

を研究し、その成果として教材「国際機関で働きたい人のためのフランス語講座」を作成し、インターネット上で公開する。

3. 研究の方法

テキスト構成の違いに関する研究は、文化的視点からと言語学的視点から考察することが可能である。

本研究では、これまで研究代表者が行ってきた文化的視点からの考察に基づいて、これに言語学的視点から基礎付けを行う。その理論的枠組みとしては、Jean-Michel Adam の最新の著作 *La linguistique textuelle* (2008) で展開されたテキスト理論を援用する。

具体的には、テキストの構成に関する研究で、3つの仮説を立てた。

仮説1) 日本語は、フランス語に比べて、結束性と指示の明確性において低い。

仮説2) 日本語は、フランス語に比べて、視点の明確性と遂行性に関して高い。

仮説3) 以上の特徴が2言語間のテキスト構成の違いの言語的基盤となっている。

本研究でこれらの仮説を、さまざまな言語事象によって、再検証した。

4. 研究成果

本研究はテキスト構成からみた、日本語とフランス語の特徴を、対照言語学的観点から明らかにするものである。その中で平成21年度は特に、「日本語は、フランス語に比べて、遂行性に関して高い。」という仮説の検証に費やした。フランス語の呼びかけに使われる親族名称名詞(Papa, Maman など)を、文学作品、インターネット上の投稿文、作例など、さまざまなデータを資料として検討し、その遂行的性格を明らかにした。この遂行的性格は、程度の差はあれ、罵り語、職業名詞、敬称表現、呼びかけ語など、他のいくつかの

名詞（句）にも見られる。そのフランス語の結果を、日本語の同様の名詞（句）と対照させ、一括して遂行名詞と名付け、その性質を言語ごとに明らかにした。その結果、この遂行的性格は、日本語の名詞でより顕著に現れることを示した。またこの現象は、1人称の地位が日本語では特権的であることとの関わりを研究した。これらの違いが日本語とフランス語のテキストの性質の違いに寄与していると思われる。

平成22年度の課題の重要テーマである遂行性に関しては、その語の発話そのものが強い遂行性を持つと考えられる名詞を複数とりあげ、遂行名詞として同定する条件を検討した。特に親族名称を表す名詞を中心としてデータを集め、その性質を多方面から検討した。フランス語の親族名称の遂行性と統語的性質およびそのテキスト中での役割については、研究成果をアメリカで開催された第2回国際フランス語学世界大会で発表した。その結果、会場および参加者とのその後のやりとりで、様々なコメントを得ることができ、新たな共同研究をするきっかけとなった。また、この国際学会への参加で、親族名称名詞以外の遂行的性格をもつ名詞である、罵り語・職業名詞・敬称表現語・呼びかけ語などに関する、新たな研究資料の存在を知った。このフランス語の成果を、日本語の同様の名詞（句）と対照させ、日本語と、フランス語の名詞句における遂行性の対照研究という、ほとんど未開拓の分野を本格的に論じる準備が整った。

また、遂行性と並んで発話の重要な発話の側面である指示は、テキスト構成の比較対照ではさけて通れない問題であるが、この関連では、日仏のゼロ照応可能性に関する違いの研究を行い、オーストラリアで開催された国際フランス語教授連合第2回アジア太平洋

地域国際大会で発表した。先の遂行名詞とあわせて、今後話法の研究へとつなげる布石となった。

平成23年度は、過去2年間の研究成果を元にして、今年度はその成果をまとめ、さらに応用研究を行った。

まず理論的研究に関しては、昨年度に引き続き、名詞のもつ遂行性の研究を続けた。特に昨年度研究成果を発表した親族名称を表す名詞に加えて、職業、敬称をあらわす名詞を引き続き研究すると同時に、新たに呼びかけ語を取りあげた。呼びかけ語に関しては、フランス語で新たに発表された最近の研究に基づき、上記の名詞の引用節の中での役割を特に研究し、遂行性との関連を明らかにし、日仏の引用句、さらには話法の違いを統一的に説明する可能性を探った。研究の最終成果の一部は、平成24年7月に開催される第三回フランス語学世界大会で発表し、学会プロシーディングスへの掲載が決定している。

上述の基礎研究の応用として位置づけている特定目的のためのフランス語教材「国際機関で働きたい人のためのフランス語講座」に関しては、当初の予定通り、平成23年度で重点的に制作を行った。この制作には、フランス国オルレアン大学の言語科学学科の教員とスタッフと研究協力をすることができ、フランス語部分の校閲、録音を委託した。成果は、研究代表者のホームページで近日中に公開予定である。また、その一部は、科学技術融合振興財団の研究助成金を得て、さらにiPhone, iPad用アプリケーションとしても利用できる形で開発した。その開発の過程で、ゲームの手法を利用した言語教育にけるマルチメディアとの可能性について考察できた。また、外交文書で使われる文が、通常の言語使用といかにかけ離れているかを観察できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

(1) TAKAGAKI Yumi, Le discours direct avec guillemets sans verbe introducteur dans les textes traduits du japonais, *3e Congrès Mondial de Linguistique Française*, 査読有, 2012 年 7 月 4 日発行決定, 下記のサイトで閲覧可能となる予定

http://www.linguistiquefrancaise.org/index.php?option=com_issues&task=proceedings&Itemid=287&lang=fr_FR.utf8%2C+fr_FR.UT

(2) TAKAGAKI Yumi, Les éléments non exprimés en français et en japonais, *Le français et la diversité francophone en Asie-Pacifique*, 査読有, 2011, 193-200

<http://www.naft.org.au/Livre%20Pacifique.pdf>

(3) TAKAGAKI Yumi, Les noms de titre familial comme marqueurs de cohérence, *2e Congrès Mondial de Linguistique Française*, 査読有, 2010, 1215-1225

<http://dx.doi.org/10.1051/cmlf/2010253>

(4) 高垣由美, 接続表現の欠如からみるテキストの結束性—フランス語と日本語の対照研究—, 言語文化学研究 言語情報編, 査読有, 第 5 巻, 2010, 67-90

[学会発表] (計 3 件)

(1) TAKAGAKI Yumi, Le discours direct avec guillemets sans verbe introducteur dans les textes traduits du japonais, CMLF 2012 - 3^e Congrès Mondial de Linguistique Française (第 3 回フランス語学世界大会 2012), 2011 年 7 月 4 日から 7 日の間での発表決定, フランス国リヨン市リヨン・リュミ

エール第二大学

(2) TAKAGAKI Yumi, Problème des éléments non exprimés dans l'apprentissage du français langue étrangère, Le 2^{ème} Congrès de la Commission Asie-Pacifique (CAP) de la Fédération Internationale des Professeurs de Français (国際フランス語教授連合第 2 回アジア太平洋地域国際大会), 2010 年 12 月 3 日, シドニー大学 (オーストラリア国シドニー市)

(3) TAKAGAKI Yumi, Noms de titre familial comme marqueurs de cohérence, CMLF 2010 - 2^e Congrès Mondial de Linguistique Française (第 2 回フランス語学世界大会 2010), 2010 年 7 月 15 日, ホテル・モンテレオン (アメリカ合衆国レイジアナ州ニューオリンズ市)

[図書] (計 1 件)

(1) TAKAGAKI Yumi, *De la rhétorique contrastive à la linguistique textuelle : l'organisation textuelle du français et du japonais*, 大阪公立大学共同出版会及び Publications des Universités de Rouen et du Havre の共同出版, 2011, 257.

[その他]

ホームページ等

(日本語)

http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/takagaki/ym_gyouseki/gyouseki.html

(英語)

http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/takagaki/ym_gyouseki/ym_english.html

(フランス語)

http://www.lc.osakafu-u.ac.jp/staff/takagaki/ym_gyouseki/ym_french.html

6. 研究組織

(1)研究代表者

高垣 由美 (TAKAGAKI YUMI)

大阪府立大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：602531267

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：